

⑥Int.CL
B 60 r
B 60 n

⑦日本分類
80 K 0
80 B 6

日本国特許庁

⑧実用新案出願公告
昭47-21783

⑨実用新案公報

⑩公告 昭和47年(1972)7月18日

(全2頁)

1

⑪乗員保護等に用いられるエアバッグ装置

⑫実願 昭45-76523

⑬出願 昭45(1970)7月31日

⑭考案者 福田成男

藤沢市辻堂西海岸3の1

⑮出願人 日産自動車株式会社

横浜市神奈川区宝町2

代理 人 弁理士 清瀬三郎 外1名

図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例を示す正面図、第2図は第1図のI—I断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は、自動車等の衝突時等において該衝撃を感知して車室内に折疊収納された空気袋を急速膨張させ乗員が堅い車両構造物等に激突するのを防ぐ所謂エアバッグ装置に関するものである。

以下図実施例につき説明すると、1は周囲にガス室2をもつた筒状エアバッグで、通常は折疊されているが、衝撃感知と同時にガスジェネレータ3よりガス室2にガスが噴出され図示の如く膨張して内部に中空部4を形成する如く構成されている。

2

5は充分な強度と適度の伸び力を有するネットで、筒状エアバッグ1の端面に中空部4を覆うように取付けられる。尚筒状エアバッグ1の他の端面は適宜取付基板等に固定支持される。

5 上記構成のエアバッグを用うるときは、図示の膨張状態において、ネット5が人体受止め用の緩衝体としての作用を営む故、エアバッグ1の注入ガス量を小とすることができ、従つて衝撃発生より膨張に至る時間を短縮し迅速に膨張させることができると共に、エアバッグ膨張による車室内の空気圧上昇も少くて済ませることができ、簡単効果的なる衝撃エネルギーの吸収体となり得るもので実用効果極めて大なるものである。

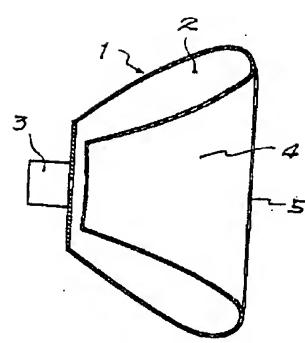
尚上記実施例ではエアバッグの全体の形状を前面がや、広がった筒状となつているものを示したが、円筒状、角筒状その他任意の形状とすることができる。又ガスジェネレータの型式は火薬式、液化ガス式、ガスピボンベ方式等任意に選定できる

実用新案登録請求の範囲
20 周囲を衝撃発生時ガスにより膨張するガス室2とした筒状エアバッグ1の端面に、人体緩衝用のネット4を装備してなる乗員保護等に用いられるエアバッグ装置。

(2)

実公 昭47-21783

第2図



第1図

